

4 . 本人交流会アンケート結果

各地域の本人交流会について返送のあったグループ

NO	都道府県	実施主体	名称	対象
1	大阪府	A地域包括支援センター		自分の物忘れが心配な人の集まり
2	大阪府	グループホームゆびおか		グループホーム入居者
3	埼玉県	認知症の人と家族の会 埼玉県支部	若年のつどい	若年性認知症の方
4	福岡県	大牟田市認知症ケア研究会	ぼやき・つばやき・元気になる会	若年性認知症の方
5	大阪府	堺市福祉サービス公社	フェニックス	若年性認知症の方
6	大阪府	愛都の会	愛都の会	若年性認知症の方
7	宮崎県	認知症の人と家族の会 宮崎県支部	今日も語るう会	話ができる人
8	神奈川県	認知症の人と家族の会 神奈川県支部	若年期認知症の人と家族のつどい	若年性認知症の方
9	神奈川県	認知症の人と家族の会 神奈川県支部	木曜会	主に、若年性認知症の方
10	大阪府	認知症の人とみんなのサポートセンター	ぱーくす倶楽部	アートワーク、本人ボランティア参加者
11	宮城県	認知症の人と家族の会 宮城県支部	翼(つばさ)	若年性認知症の方、70代前半まで
12	北海道	函館 認知症の人を支える会	どうなんでしょうの会	認知症について自覚あり、話したい
13	京都府	認知症の人と家族の会 京都府支部	若年認知症本人・家族のつどい	若年性認知症の方
14	東京都	若年認知症家族会「彩星の会」	彩星の会	若年性認知症家族会に所属している方

許可のあった項目のみ下記に公表いたします。

No. 1

交流会の名称	A 地域在宅サービスセンター
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (宮崎 都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) ⑤ その他 (A 地域包括支援センター)
代表者名	
連絡先	大阪府
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは (21) 年 (4) 月から 認知症サポーター要請講座に参加したが、サポーターというより、自分の認知症が心配であるという声があり、同じ悩みを持つ人と話したいという要望があったため。
実施頻度	年 (6) 回
実施場所	A 地域在宅サービスセンター
対象	自分でもの忘れがあると感じている人。

参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(3)人 性別: 男性()人、女性(3)人 年齢: 60歳未満(1)人、60代(1)人、70歳代(2)人、 80歳以上()人 介護度: <u>未申請</u> 自立(3)人、要支援()人、要介護1・2(1)人、 要介護3～5()人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(0)人 支援者の1回平均参加人数(2)人
実施内容	10:00 ~ 机を囲んで会話。
参加費	参加費 1人あたり(0)円
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	「自分の心配なことを話すことで、同じ体験をしている人たちなので共感を得ることができるのが嬉しい。」 「家族に話しても、『心配ない』という一言で片付けられるので、話そうと思わなくなってしまう。」という声がある。
今後の課題	送迎の問題。 1人では参加できなく、家族も、送迎してまで参加させようという気持ちがない。 送迎は、マンパワーもいるので難しい。
今後の方向性 力を入れて生きたい点	
自己PRなど	

No. 2

交流会の名称	「グループホームゆおびか」
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (都道府県支部) ② 介護保険事業所(事業所名:グループホームゆおびか) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) 5 その他()
代表者名	結城 香子
連絡先	〒537 - 0012 大阪市東成区大今里 1-23-12 電話 06 (6971) 8270 FAX 06 (6971) 8271 Eメール k-yuuki@health-coop.jp
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(平成 20)年(12)月から 支援者研修を受けて、グループホームで無理なくできる場はないかと思いつき、一度皆が集まる職場会議を利用するようになった。

実施頻度	年(12)回 月一度だが、決まった曜日はない。 13時半～15時の間。
実施場所	「グループホームゆおびか」の居間
対象	グループホームに入居されている方。
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(3)人 性別: 男性()人、女性(3)人 年齢: 60歳未満()人、60代()人、70歳代()人、 80歳以上(3)人 介護度: 未申請・自立()人、要支援()人、要介護1・2()人、 要介護3～5(3)人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(0)人 支援者の1回平均参加人数(5)人
実施内容	グループホームの会議をしながら、遠足や食事など一緒に決めたり、また、ご本人の困りごとの思いを引き出し、職員もその声を聞くというような内容。 しかし、現在は2～3名の参加となり、十分に思いを引き出すことができていない。 どうしても会議が優先となることと、ご本人のご様子の変化もあり、参加することだけで安心して一緒にいるというような内容になってきている。
参加費	参加費 1人あたり(0)円
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	2年前は、会議中に私語があるときに、利用者の方が「人が話しているときは聞かなあかん」と注意をされたり、具体的な言葉でなくてもじっとしてられない方が会議に入るとじっとされ、居眠りされたりという状況。 物が盗られると頻繁におっしゃる方は、会議で「物が盗られて困る」という相談をされることもあった。
今後の課題	職員会議でご本人の思いを引き出すこと、ご本人同士の交流は難しいと思っている。 また、ご本人の変化・・・耳が遠くなっている、言葉の理解に時間がかかるようになっておられる。 現在の生活で無理なくできるのは、おやつの時間を利用できるかと思う。 皆が集まってくる、美味しいおやつがあるという状況で、話がしやすい場である。
今後の方向性 力を入れて生きたい点	グループホームという共同生活の場で、職員ではないご本人同士の交流は正直で率直なお付き合い、本音で語れる関係、共同体としての絆のようなものを築いていけるのではないかと思う。それをご本人同士へ丸投げするのではなく、認知症をもったことによる表現のしにくさから、かかわりが途切れていく関係性を職員が間に入り潤滑油のような役割をすることでかかわりをよいものへしていきたいと思う。
自己PRなど	グループホームという共同体の中でのご本人たちのかかわりを考えると、毎日顔が見える関係でありながらも、どこか遠いような印象がある。 その遠さはどこからくるのかと考えた時に、やはり、認知症をもったことでの思いの表現のしにくさであったり、記憶障害からくる、毎日見ているけど毎日新鮮であったり、積み重ねることの難しさであるように感じる。

	その部分を私たちがどう一緒に積み重ねていくか、これが、私たちのグループホームに課せられたものである。 生活の中にあるご本人の交流会によって、少しでも積み重ねになればよいと思う。
--	---

No. 3

交流会の名称	若年のつどい
実施主体	① 「認知症の人と家族の会」支部 (埼玉 都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) 5 その他()
代表者名	宮下 房江
連絡先	〒 331 - 0823 埼玉県さいたま市北区日進町1 - 709 電話 048 (667) 5553 FAX 048 (667) 5953 Eメール afcdesai@circus.ocn.ne.jp
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(2001)年(7)月から 初めて若年介護者だけのつどいを持ち、その後、2006年より定例化した。
実施頻度	年(3)回 4ヶ月毎、会場が確保できる土曜日に開催している。
実施場所	越谷中央市民会館
対象	若年認知症の方のみ
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数()人 性 別: 男性(4)人、女性(2)人 年 齢: 60歳未満(5)人、60代(1)人、70歳代()人、 80歳以上()人 介護度: 未申請・自立(1)人、要支援()人、要介護1・2()人、 要介護3～5(5)人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(10)人 支援者の1回平均参加人数(10～15)人
実施内容	参加者全員の自己紹介の後、昼食をとりながら歓談し、午後は本人・家族にわかれ集いを継続。本人については、世話人・ボランティアが個別に寄り添いながら臨機応変に対応している。
参加費	参加費 1人あたり(100)円 その他、昼食は各自で準備。会場費など。
印象深かったエピソード・ 認知症の人の声	

など	
今後の課題	若年のつどいの中で、ご家族がゆっくりと話のできる機会を作るために、本人と別に過ごせる場を設けているのが実情で、特に本人交流会を開催するまでには至っていない。
今後の方向性 力を入れて生きたい点	できる範囲で、できることを継続していくのみ。
自己PRなど	

No. 4

交流会の名称	ぼやき、つぶやき、元気になる会
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (都道府県支部) ② 介護保険事業所 (事業所名: 大牟田市認知症ケア研究会) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) 5 その他 ()
代表者名	大谷 るみ子
連絡先	〒 836 - 0091 福岡県大牟田市沖田町 510 高齢者総合ケアセンター サンフレンズ 電話 0944 (43) 1223 FAX 0944 (43) 1273 Eメール sunfriends@mx7.tiki.ne.jp
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(H 22)年(5)月から 若年認知症の本人(認知症デイ利用中)より、当事者同士で話してみたい、テレビで見た足立昭一さんと会って話がしてみたいという思いから始まった。
実施頻度	年(12)回 毎回との都度みんなで決定している。
実施場所	地域交流センター
対象	若年期に発症した認知症の人
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(5)人 性別: 男性(3)人、女性(2)人 年齢: 60歳未満(2)人、60代(3)人、70歳代()人、 80歳以上()人 介護度: 未申請・自立(3)人、要支援()人、要介護1・2(2)人、 要介護3~5()人 認知症の人の家族の1回平均参加人数()人

	支援者の1回平均参加人数(5)人
実施内容	14時～16時半。 ・本人より近況報告 ・本人、家族分かれての、ぼやき・つぶやきタイム(サポーター付) ・交流タイム(活動企画、作品作成、イベント参加など)
参加費	状況に応じて、茶菓子を参加者で適宜持ち寄り。
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	本人の生の声に、支援する立場として大きな衝撃と学びがあった。 ・この会に参加して、自分だけではなかったんだ ・仕事や車の運転をやめなければならない決断 ・自分の案をもって市議選に立候補し、『認知症』について多くの人に理解してもらいたい他
今後の課題	まだまだ、認知症について1人で悩み苦しんでいる方々も多いと思われる。 この会を進めていく段階で、認知症の本人や家族も「仲間がここにいる」ことで乗り越えられる姿をみせていただくことから、早くもっと多くの人につながりたいと切に思います。 また、すべてができなくなったわけではない。まだまだできること、今だからできることを支援できるような、本人の思いからの取り組みを企画にしたいと思っています。 また、経済につながったらとも思います。
今後の方向性を力を入れて生きたい点	本人の声を最大限に拾い上げ、「本人の力」が発揮できるようにしたい。 と同時に、家族同士の集いも大切に継続していきたい。 そうすることで、「大変だけど、共に前向きで一緒に暮らしていけそう」という家族・当事者の言葉があった。 家族は、この会で本人もつらくていろんな思いがあることがわかった。しかし、家族の思いもあり、それは家族同士にしかわかない。自分が乗り越えてきたことに今直面している家族がいるので、少しでも力になりたい。本人・家族とともに伴走できる支援者を育て仲間づくりをしていきたい。
自己PRなど	認知症の人、同じ思いを持っている者同士、家族は家族同士で支えあっている。 家族は心理的に乗り越えることができた。 本人や家族が多数の人々へ思いを発信することができた (H22.11.23 介護の日、福岡市都久志会館にて) } 氏しかできない仕事が始まった。

No. 5

交流会の名称	堺市若年認知症 本人家族交流会「フェニックス」
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:)

	⑤ その他(堺市福祉サービス公社)
代表者名	室谷 牧子
連絡先	〒593 - 8324 大阪府堺市西区鳳東町4 - 390 - 1 泉北府民センタービル2F 電話 072 (273) 2940 FAX 072 (273) 2950 Eメール ninchikita@salsa.ocn.ne.jp
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(22)年(1)月から 若い認知症のご家族の熱意と、地域包括支援センターに認知症連絡担当者が配置されたから。
実施頻度	年(12)回 毎月第3月曜日。
実施場所	不定
対象	若年認知症 ご本人・ご家族
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(3)人 性別: 男性(1)人、女性(2)人 年齢: 60歳未満()人、60代(3)人、70歳代()人、 80歳以上()人 介護度: 未申請・自立()人、要支援()人、要介護1・2(3)人、 要介護3～5()人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(0)人 支援者の1回平均参加人数(3)人
実施内容	座談会 本人・ご家族 支援者との交流会(幅広く関係者に呼びかけて) 野外散策・食事会 アートワーク研修
参加費	参加費 1人あたり(0)円
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	本人の活動の場がほしい。 外出や楽しむ企画もほしい。 家族は別でゆっくり話したい。
今後の課題	本人の活動の場作り。
今後の方向性 力を入れて生きたい点	家族会とは分けて、本人の活動(ボランティア Active など)の場を作ろうと思います。 また、本人の楽しむ場 (Enjoy)も。 サポーターを増やし、Active と Enjoy 2つの活動を支え、進めたいと考えています。

自己PRなど	本人の「やりたい」思いを実現できる支援を目指したい。 こんな風に生きたい、過ごしたいと、本人が前向きに言ってくださる関係を作れるよう努力したい。
--------	---

No. 6

交流会の名称	愛都の会
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) 5 その他(愛都の会)
代表者名	梅原 早苗
連絡先	〒 537 - 0024 大阪市東成区東小橋1 - 18 - 33 電話 06 (6972)6490 FAX 06 (6972)6490 Eメール @
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(2007)年(12)月から 本人ネットワーク支援委員 沖田さんに教えてもらった。
実施頻度	年(5)回
実施場所	
対象	
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(5)人 性別: 男性()人、女性()人 年齢: 60歳未満(2)人、60代(3)人、70歳代()人、 80歳以上()人 介護度: 未申請・自立()人、要支援()人、要介護1・2()人、 要介護3～5()人 認知症の人の家族の1回平均参加人数()人 支援者の1回平均参加人数()
実施内容	
参加費	参加費 1人あたり(100)円
印象深かったエピソード・認知症の人の声	「ここに(定例会)に来たら一人じゃないって思える。今までずっと家にいたけどよかった。他の人も来たらいいのに。女性の方は少ないみたいね。」

今後の課題	
今後の方向性 力を入れて生きたい点	集まれる場に対して、本人がどのようなことを期待し、要望を持たれているのか、今後更に知っていききたい。
自己PRなど	限られた情報、単発的な集団・空間の中で、一人一人のご本人と関わり、コーディネートしていく立場で動くことの経験の少なさから難しさを感じている。 今後、交流会を進めていく中で、参加するサポーターと情報共有し、主人のしたいこと、思いを言える場を支援することを広げていききたいと思う。

No. 7

交流会の名称	「今日も語ろう会」
実施主体	① 「認知症の人と家族の会」支部 (宮崎 都道府県支部) ② 介護保険事業所 (事業所名: 小規模多機能ホームよかよか) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) ⑤ その他(家族の会世話人)
代表者名	生田 みい子
連絡先	〒880 - 0806 宮崎県宮崎市広島1 - 14 - 17 小規模多機能ホームよかよか 電話 0985 (35) 6900 FAX 0985 (35) 6963 Eメール @
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(21)年(4)月から たまたま「よかよか」で、よかよかの利用者と家族の会に参加されていた本人様と話の場を作りました。会話がとても弾んだのを見ていて、本人交流の原点だと気付かされた経緯があります。
実施頻度	年(12)回 毎月第2月曜日。
実施場所	小規模多機能ホーム3F
対象	話ができる人。とりあえず、時間を座って過ごすことができる人。
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(6)人 性別: 男性(4)人、女性(2)人 年齢: 60歳未満(0)人、60代()人、70歳代()人、 80歳以上()人 介護度: 未申請・自立()人、要支援()人、要介護1・2()人、

	<p>要介護3～5()人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(0)人 支援者の1回平均参加人数(3)人</p>
実施内容	<p>11:00 挨拶をして、この1ヶ月にあった出来事を何度も話していただきます。 12:00 弁当(昼食)をいただきながら、引き続き自由に話しながら・・・ (趣味・孫の話・夫婦間の不満など) 13:00～14:00 次回の計画を皆さんに考えていただき、残りの30分くらいを皆で合唱します。時々外に出かけます。 ◎ フラワー公園、博物館(古民家)訪問、近くのレストランで昼食をとりによかよかからゾロゾロと出かけることもあります。</p>
参加費	<p>参加費 1人あたり(0)円 昼食代実費</p>
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	<p>公園に出かける途中の車の中で、女性二人の話が日々の暮らし方にふれられ、夫や周りの人に迷惑をかけていることが辛いと、辛さを共感され涙されたことが印象に残っています。その日二人はずっと手をとって、そばに寄り添って過ごされました。出かけることに軽い拒否がある人が「本人交流会」には嫌がらず参加されているそうです。解散前に「世話になりました。楽しかった！ここはいいところですね」とおっしゃいます。</p>
今後の課題	<p>何か、スポーツや趣味的なことも取り入れてみたいと考えていますが、皆でできるものを考えると難しい。 お昼に簡単な料理(お好み焼きか鍋料理)をしてみたいと思っています。</p>
今後の方向性 力を入れて生きたい点	<p>会を、もう少し変化のある内容にしていきたい。 4頁下の欄記入のような取り組みをしていきたい。 支援者のスキルアップにも力を入れたい。 必ず、反省会を実施したい。</p>
自己PRなど	

No. 8

交流会の名称	<p>若年期認知症の人と家族のつどい *「木曜会」は別紙記入</p>
実施主体	<p>①「認知症の人と家族の会」支部 (神奈川 都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名: 高齢者総合ケアセンター、サンフレンズ) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) 5 その他()</p>
代表者名	<p>杉山 孝博</p>
連絡先	<p>〒 212 - 0016 神奈川県川崎市幸区南幸町1 - 31 グレース川崎203 電話 044 (522) 6801 FAX 044 (522) 6801</p>

	Eメール @
はじめた経緯	<p>本人交流会をはじめたのは(2006)年(4)月から 2003～2005 年、若年期認知症の家族のつどいの中で、本人の参加が増え、定期的に回数を増やしての開催の要望が高まる。 2006 年から、場所の確保が可能となり、世話人・サポーターの数も増えたことから「本人のつどい」を開催する。</p>
実施頻度	年(6)回
実施場所	本人と家族のつどい:精神障害者生活支援センター「ほっとぽっと」
対象	若年期認知症の人
参加人数	<p>認知症の人の1回平均参加人数(10)人 性 別: 男性(6～7)人、女性(3～4)人 年 齢: 60歳未満(3)人、60代(6)人、70歳代(1)人、 80歳以上(0)人 介護度: 未申請・自立()人、要支援()人、要介護1・2(5)人、 要介護3～5(5)人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(15～20)人 支援者の1回平均参加人数(10～15)人</p>
実施内容	<p>11:00～11:30 本人・家族全員で集まり、挨拶と自己紹介 11:30～12:15 街に昼食・おやつの買出し 12:15～13:15 昼食 13:15～15:00 散歩(遊歩道や自然公園)、合唱、カラオケ、談話(話題はさまざま)、 芸術(美術)制作。</p>
参加費	<p>参加費 1人あたり(300)円 食費(弁当)実費</p>
印象深かったエピソード・ 認知症の人の声 など	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して参加している人たち同士、毎回再会を喜ぶ顔・ハグ ・買い物時:スーパーの中での弁当を選ぶ姿 ・散歩のとき:歩行不自由な人を気遣って、肩や腰をサポートする姿 ・散歩のとき:植木、花の名前、空気の様子、雲の流れを表現する言葉(詩情豊かな表現)に感動
今後の課題	<p>毎回新しい参加者が増え、一人ひとりの状態(状況)把握の仕方検討 サポーターの情報共有。 心身の状態変化が早く、継続して参加が困難になる人が多い その後のフォローについて検討中。 サポーターの確保とサポーターの研修。 場所の確保 参加者増・プログラム展開に見合った場所の確保。 地域別展開について 関係市町村や活動グループとの連携。</p>
今後の方向性	

力を入れて生きたい点	
自己PRなど	

No. 9

交流会の名称	木曜会
実施主体	①「認知症の人と家族の会」支部（神奈川県 都道府県支部） 2 介護保険事業所（事業所名：高齢者総合ケアセンター、サンフレンズ） 3 病院（病院名：） 4 任意のボランティア団体（団体名：） 5 その他（）
代表者名	杉山 孝博
連絡先	〒 212 - 0016 神奈川県川崎市幸区南幸町1 - 31 グレース川崎203 電話 044 (522) 6801 FAX 044 (522) 6801 Eメール @
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(2009)年(4)月から 若年期認知症の人と家族のつどいの中から、本人同士の交流を継続して持ちたいということから、家族・本人・世話人で企画して、月2回開催している。
実施頻度	月2回(第1・3木曜日)
実施場所	企画・内容により異なるが、雨天、冬場は「ほっとぽっと」で開催。
対象	主に、若年期認知症の人
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(9~10)人 性別：男性(11)人、女性(2)人 年齢：60歳未満(2)人、60代(9)人、70歳代(2)人、 80歳以上()人 介護度：未申請・自立(2)人、要支援()人、要介護1・2(5)人、 要介護3~5(6)人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(8~9)人 支援者の1回平均参加人数(1)人
実施内容	公園散歩や見学など、外出の企画が多いが、室内で行うときは、工芸・料理・音楽・話し合いなどが多い。 10:30~11:00 集合 11:00~12:00 散歩・料理・陶芸・音楽・他 12:00~13:00 昼食 13:00~15:00 散歩・見学・音楽・話し合い・他

参加費	参加費 1人あたり(なし)円 交通費・材料費(会からの補助あり)
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	なかなかみんなの中に入れなかった人が、1人で家に帰ることが難しくなってきた仲間を気遣って、家まで送っていくことを積極的にしてくれた。 言葉ではあまり言わないが、周りに気を遣い交流が見られる。 公園や自然の中を散策のとき、よく草花や木々の名前を教えあったり、小鳥を見つけたり、こういうときは本人も家族も一緒に楽しみ、リフレッシュをしている。
今後の課題	心身の状態変化が早く、プログラムを皆が楽しんで参加できるように検討することが必要。 プログラムの内容によっては、サポーターを増やすことも検討。
今後の方向性を力を入れて生きたい点	
自己PRなど	

No.10

交流会の名称	ぱーくす倶楽部
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) ④ 任意のボランティア団体 (団体名: NPO 法人 認知症の人とみんなのサポートセンター) 5 その他()
代表者名	沖田 裕子
連絡先	〒 537 - 0024 大阪市東成区東小橋 1-18-33 NPO 法人 認知症の人とみんなのサポートセンター 電話 06 (6972) 6490 FAX 06 (6972) 6490 Eメール @
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(H20)年頃()月から 認知症の人が集まると自然に本人同志の交流を図るように働きかけている。 参加者をつないで、「聴いてくれる人がいる」「辛いのは自分だけじゃない」などの思いを共有してほしい。また、「希望」など明るい話題も皆で話してほしい。 認知症の本人が、どう感じているのか、何を思っているのか知り、本人主体に関わっていきたい。安心して何でも話せる場と仲間作り。
実施頻度	毎週火曜日の午後 本人ボランティア活動の中で。 第1・3木・金の午後 アートワークの作品作りなどを通して。
実施場所	NPO 認知症の人とみんなのサポートセンター 1階

対象	アートワークと本人ボランティアの参加者
参加人数	<p>認知症の人の1回平均参加人数(2~3)人 性別: 男性(1)人、女性(4)人 年齢: 60歳未満(2)人、60代(2)人、70歳代(1)人、 80歳以上()人 介護度: 未申請自立(1)人、要支援()人、要介護1・2(4)人、 要介護3~5()人</p> <p>認知症の人の家族の1回平均参加人数(0~1)人 支援者の1回平均参加人数(1~3)人</p>
実施内容	<p>毎週火曜日本人ボランティア活動: 作業の役割分担について本人の意向を聞く(本人同士で決めることもある。)。作業を通して得意なことや苦手なこと、障害について困っていること。また思い出話や家族の話題など話の内容は多彩。</p> <p>第1・3木金のアートワーク: 作品づくりを通して、季節から想起できるものについて皆で話したり、モチーフについて見たり食べたりした感想を述べ合ったり、自分や他者の作品についての感想を述べ合ったり、作品販売について話し合う。</p> <p>活動後30分~1時間のティータイムでは特にゆったり、いろいろな話題。</p>
参加費	<p>参加費 1人あたり(0)円 本人交流会としては特にもらっていない。</p>
印象深かったエピソード・ 認知症の人の声 など	<p>家族からモチーフとはかけ離れた作品の色使いを指摘されて、「私が気持ちよく描いているからいいいいの」と言われたり、『なんども同じ話をする』といわれることに対して、「大切だから話しているの」などと、他者や家族に自分の気持ちを伝えられるようになった。もの忘れがあるということを他者の前でも言えるようになり、「忘れるから教えて」など、自分から支援を求められるようになった。50歳代の女性は太ってきたことを気にされ、「痩せなあかん、ジムに行きたい」と話され、年齢が若い女性ならではのニーズを知ることができた。</p> <p>「私がこんなになってから娘に チャンと呼ばれるようになったのが嫌。お母さんと呼ばれたい」など、状況をよく理解されており、なかなか家族には直接言えない胸のうちなどが語られた。</p> <p>馴染みの関係が形成され、なんでも話せると同時に、苦手な作業を補い合ったり、新規の人を温かく迎え入れられる場面が見られるようになった。「ここでは何でも話せる」「ここにくるのが生きがい」</p>
今後の課題	<p>本人の声を生かす。 ご本人の声(思いや希望など)を、ご家族が知らないことも多い。ご家族には直接話せないことがあったり、ご家族も、本人に思っていることや希望があるとは思っていなかったりするるので、ご家族へのフィードバックをしたい。</p>
今後の方向性 力を入れて生きたい点	<p>皆で温泉に行きたい、海遊館に行きたいなど、<u>本人の希望を実現したい</u>。 希望が実現すれば、もっと多くの希望につなげたいと思う。</p>
自己PRなど	<p>本人ボランティアもアートワークも、作業や作品作りだけでなく、スタッフが本人の声を引き出し、本人同士が交流できるようにつないでいる。 そのことにより、仲間意識が芽生え、楽しみや支えあいにつながり、参加者に笑顔が絶</p>

	<p>えない。</p> <p>アートワークの作品販売に関しては、値段の設定・収入の使い道などを皆で話し合ったり、販売の準備を行う。</p> <p>「何もできない」「社会参加」「自信の回復」につながっていると思われる。</p>
--	--

No. 11

交流会の名称	若年認知症の方の集い「翼(つばさ)」
実施主体	<p>①「認知症の人と家族の会」支部 (宮城 都道府県支部)</p> <p>2 介護保険事業所 (事業所名:)</p> <p>3 病院 (病院名:)</p> <p>4 任意のボランティア団体 (団体名:)</p> <p>5 その他()</p>
代表者名	関東 澄子
連絡先	<p>〒980 - 0014</p> <p>宮城県仙台市青葉区本町3 - 7 - 4 宮城県社会福祉会館2F</p> <p>電話 022 (263) 5091 FAX 022 (263) 5091</p> <p>Eメール kantou@mwa.biglobe.ne.jp</p>
はじめた経緯	<p>本人交流会をはじめたのは(18)年(9)月から</p> <p>若年認知症の方が行けるサービスがなかった。</p>
実施頻度	毎月 第1・3木曜日(定例)
実施場所	(宮城県) 泉社会福祉センター
対象	若年認知症の方を中心に、70代前半までの方。
参加人数	<p>認知症の人の1回平均参加人数(10)人</p> <p>性別: 男性(4)人、女性(6)人</p> <p>年齢: 60歳未満()人、60代(9)人、70歳代(1)人、 80歳以上()人</p> <p>介護度: 未申請・自立()人、要支援()人、要介護1・2(10)人、 要介護3～5()人</p> <p>認知症の人の家族の1回平均参加人数(10)人</p> <p>支援者の1回平均参加人数(10)人</p>
実施内容	<p>[1日の流れ 10:30～15:00]</p> <p>1、朝の会:簡単な自己紹介</p> <p>2、体操</p> <p>3、昼食</p> <p>4、歌のレッスン</p> <p>5、ティータイム</p>

参加費	昼食・おやつ代実費(約 500 円程度)
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	1 年前に合唱団を結成(本人・介護者・支援者) 平成 22 年 11 月 14 日 第 26 回家族の会全研にて発表。 その後、デイサービスに行ったとき、発表曲を皆さんに歌って聴かせて誉められた。 翌日本人が「昨日、楽しかったね」と言ったので、介護者の方が驚いた。 感動したことは忘れないですね。 本人の発言(全研)を会場で聞き、『よかったね』と、翼の会の開催時に感想を言われた。
今後の課題	・多様な症状の方の対応の仕方(例えば、前頭側頭型認知症、レビーの方) ・関わるスタッフの人数の確保
今後の方向性を力を入れて生きたい点	本人同士が仲間意識を感じて、お互いに支えあえるような関わり方をしていきたい。 合唱団の発表できる機会を増やし、常に目標を持って練習していきたい。
自己PRなど	初参加の方でもすぐに打ち解けて「ここはいい」と言ってくださる雰囲気がある。 本人の言葉・会話を大事にしている。 毎回記録している。 介護者の気持ちを受け止めて、本人への関わりの安定を図っている。

No.12

交流会の名称	どうなんでしょうの会(道南本人交流会)
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) ⑤ その他(函館 認知症の人を支える会)
代表者名	佐藤 悠子
連絡先	〒040 - 0063 函館市若松町 33-6 函館市総合福祉センターあいよる 21 ボランティア室 函館認知症の人を支える会 佐藤 悠子 電話 0138 (27) 4060 FAX 0138 (27) 4060 電話・Fax は毎週木曜日 10:00 ~ 15:00 Eメール @
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(2009)年(9)月から 2009 年度、本人ネットワーク支援事業「全国 7 ヶ所近隣 7 ヶ所近隣の認知症の人たちが集まる日帰りの交流会」を実施しようと有志が集ったのがきっかけ。 道南本人交流会実行委員会を立ち上げ、支援ボランティア養成研修を行った。 2009 年度に 4 回の本人交流会を行い、2010 年度から実施主体を「函館認知症の人を支える会」に移して年 10 回実施している。

実施頻度	年(10)回 8月、12月以外は毎月第3土曜日。
実施場所	函館市総合福祉センター あいよる21 会議室
対象	自分が認知症であることをわかっておられて、認知症について話す場に参加したいと思う方。(身障者用トイレあり、車椅子利用者も可。)
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(3)人 性 別: 男性(2)人、女性(2)人 年 齢: 60歳未満(0)人、60代(1)人、70歳代(2)人、 80歳以上(1)人 介護度: 未申請・自立(1)人、要支援(0)人、要介護1・2(1)人、 要介護3～5(2)人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(2)人 支援者の1回平均参加人数(4)人
実施内容	13:00～14:00 本人と家族と一緒に懇談 14:00～15:00 家族が別室に移動。本人は本人の集い、家族は家族の集い。 15:00～家族がもどってきて一緒に懇談。次回の案内、後片付け。
参加費	参加費 1人あたり(200)円 茶菓子代
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	「私は認知症の 」 「(困っていることはなんですかとたずねられて)困っているのは仕事がないことかな」 「ここは、呆けの集まりか…」
今後の課題	参加者が増えないこと。 平均3人ぐらいでもじっくり話ができるので良いとおもうが、休む人が多いと1人になってしまうこともある。
今後の方向性をいれて生きたい点	参加者が増えないこと。 平均3人ぐらいでもじっくり話ができるので良いとおもうが、休む人が多いと1人になってしまうこともある。
自己PRなど	「家族の集い」ふまねっとなど。

No.13

交流会の名称	若年認知症本人・家族のつどい
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (京都 都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) 5 その他()

代表者名	荒牧 敦子
連絡先	〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福社会館 2F 電話 075 (811) 8399 FAX 075 (811) 8188 Eメール kyoto @ alzheimer.or.jp
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(1999)年(2)月から 1999年2月、「若年のつどい」に「本人のつどい」を含めて開催。 その後、個人宅や公共施設で毎月集うが、会から世話人 1 人が参加し、その経過を会報に報告。2001年5月まで継続。会主催は2002年～2003年 年1回開催。 2004～2005年は年2回、2006年～2007年 年3回、2008年以降は年4回開催。
実施頻度	年(4)回 2010年11月21日 2011年3月6日。
実施場所	京都社会福社会館
対象	連れてこられる方は、どんな人でも可。
参加人数	認知症の人の1回平均参加人数(10)人 性別: 男性(6)人、女性(4)人 年齢: 60歳未満(2)人、60代(7)人、70歳代(1)人、 80歳以上(0)人 介護度: 未申請 自立(3)人、要支援(0)人、要介護1・2(3)人、 要介護3～5(4)人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(18)人 支援者の1回平均参加人数(26)人
実施内容	1:30～2:00 家族・本人共自己紹介(最近嬉しかったことがテーマ) 2:00～4:00 本人(2グループに分ける) 1グループ:話のできる人・机を囲んで会話 2グループ:テーブル卓球、ゲーム、散歩、歌声喫茶日 お茶・お菓子は欠かせない。 別室にて「家族のつどい」
参加費	参加費 1人あたり(500)円 1家族あたり会費 200 円
印象深かったエピソード・認知症の人の声など	「仕事もまだできることはあるけれど、大切な約束をしたことを万が一忘れて、職場や取引先に迷惑をかけるかもしれないので、早期退職をした。ずっと仕事ばかりの生活をしてきて、突然何もなくてよい生活になり、何をして1日を過ごせばよいのか?特に、家族に迷惑をかけたくない。」
今後の課題	11月21日より、本人の方も、家族の方にも、医師の助言ができるようになった。 今後は、本人の悩み、訴えなどをいかに引き出していか。また、仲間意識を持ち合うことができるかが課題。

今後の方向性 力を入れて生きたい点	専門職も含めてのスタッフの育成。
自己PRなど	

No.14

交流会の名称	若年認知症家族会・彩星の会
実施主体	1 「認知症の人と家族の会」支部 (都道府県支部) 2 介護保険事業所 (事業所名:) 3 病院 (病院名:) 4 任意のボランティア団体 (団体名:) ⑤ その他(任意の家族会)
代表者名	干場 功
連絡先	〒160 - 0022 東京都新宿区新宿1 - 25 - 3 エクセルコート新宿302 電話03 - 5919 - 4185 FAX 03 - 5368 - 1956 Eメール hoshinokai@star2003.jp
はじめた経緯	本人交流会をはじめたのは(平成13)年(9)月から はじめた経緯は 家族会の定例会にて、ご本人の参加もあったから。 家族介護者とは別に過せる場の必要性があった。
実施頻度	年(5)回 奇数月第4日曜日
実施場所	都内の大学
対象	若年認知症家族会に所属している方
参加人数	知症の人の1回平均参加人数(15)人 性 別: 男性(10)人、女性(5)人 年 齢: 60歳未満(5)人、60代(8)人、70歳代(2)人、 80歳以上()人 介護度: 未申請・自立()人、要支援()人、要介護1・2()人、 要介護3～5()人 認知症の人の家族の1回平均参加人数(30)人 支援者の1回平均参加人数(15)人
実施内容	・季節のイベント(夏祭り、フラダンス、音楽会、スポーツ大会など) ・個人の特技を活かした活動(歌、似顔絵、スポーツ)

参加費	参加費 1人あたり(0)円
印象深かったエピソード・ 認知症の人の声 など	毎回、本人同士の活発な会話が繰り広げられている。本人とサポーターと一緒に協力し合って、交流の場や和やかな雰囲気を創出している。
今後の課題	サポーターの継続、発掘
今後の方向性 力を入れて生きたい点	<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女のサポーターの発掘、協力の呼びかけ ・サポート体制の強化(サポーター同士の情報共有の場)
自己PRなど	<p>若年認知症に特化して、本人交流会を行っています。</p> <p>多彩な価値観や個性を持つ方々が集い、とても魅力的な会です</p>